

一新塾講義録(2003年8月6日19:30~21:30)

「21世紀型の起業の条件」

加部隆史氏

(NPO安全工学研究所代表理事

・一新塾理事・一新塾OB)



「みなさんが考える21世紀の起業の条件はなんですか？」
「今の日本の現状を見て、3~5年後に危機感を抱いている方は？」
この二つの問いかけから講義がはじまりました。危機感を抱いているのはほぼ全員でした。加部氏が塾生になった頃、3年前にはそれほど危機感をいだいている方はいませんでした。

加部隆史氏はアメリカナイズされた日本の中でも、希少な欧州派。ドイツ系工業分野でのベンチャー企業の日本でのゼロベースからの立ち上げを10年間で4件実施されています。

【日本経済、近代からの3回の転換期】
第一の転換 明治維新 「欧米へのキャッチアップ」
第二の転換 第二次世界大戦後 「奇跡の経済復興」
成功体験が大きいので過去をすてきれない日本。
独創性を骨抜きにされた日本人。
第三の転換 西暦2000年 「グローバル化」

【21世紀起業の条件を考えるための視点】
忘れられたイノベーションを取り戻す=ハングリー精神を取り戻す
成長分野はIT、ナノテクノ、バイオ、環境
重要な分野は環境、小中高齢化、安全衛生
条件：すべて周辺に転がっている(人、物、金、知識等)ので、それをどうつなぐか？

【起業の壁はイノベーションの拒否】
新しいことをやるぞと言うとみんな抵抗します。
物事を理解することと、自分自身が受け入れることと、実践することは全く違います。受け入れても足がすくんでしまう方が8割。起業するということは、誰もやっていないことをやること。誰にも相手にされないのをくり返してやってゆく、非常に大変なことです。しかも、何人かと一緒にやってゆかなければならないということ。高いハードルです。実践すべき人の言い訳は、決まっています。以下のようなものです。
「我々は何時もこうやってきた」、「今まで道りの方が安く、良く簡単だ」

「技術的リスクが大きすぎる」、「人が足りないから出来ない」

「コンピューターがわからない、不完全の為、出来ない」

前を見ないで後ろを向いているのが人の動きの実態です。――

【講師プロフィール】

1987-1997 パルテック株式会社代表取締役(防爆電気機器)

1991-99 アルファゲトリーベ株式会社 代表取締役(精密減速期・動力電動装置)

1995-00 ビュルケルト株式会社 代表取締役/取締役(流体制御機器)

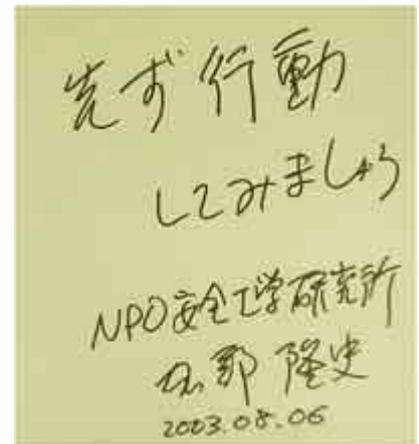
1988-01 日本クロネス株式会社 代表取締役の後取締役(総合ボトリングライン)

1998-エラン日本支社 支社長(安全電気機器) www.elan.de

2000-シュメアザール日本支社(安全電気機器・システム)

www.schmersal.de
(www.steute.de)

2002-NPO 安全工学研究所 代表理事 www.safetylabo.com





「新しいパラダイムを見据え、主体性をもってリスクの裏腹の可能性をつかむことが大切です。つまり、決断をくだす、そして動けるかということ。そしてそれをもって社会にどう貢献するか。チャンスはごろごろしています。考えているだけでは結果は出ません。」

「世界からは『日本はもっとも成功した社会主義国』とされています。古い日本式経営、日本村から脱皮しましょう。誰の為の起業ですか？どう社会に貢献しますか？何を残したいのですか？それを自分で考えて、自分で決めて、自分で責任をもつことです。事業は金銭的な目処がないと続きませんが、志とコンセプト、事業計画書（プロが必要）で投資していただくことができます。みなさんががんばってください。」

（了・文責 一新塾事務局長 森嶋伸夫）

[一新塾ホームページを表示する](#)

Copyright 2003 一新塾 All rights reserved.

東京都港区芝 3-28-2 カスターニ芝ビル 2F TEL 03-5765-2223 FAX 03-5476-2722